



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

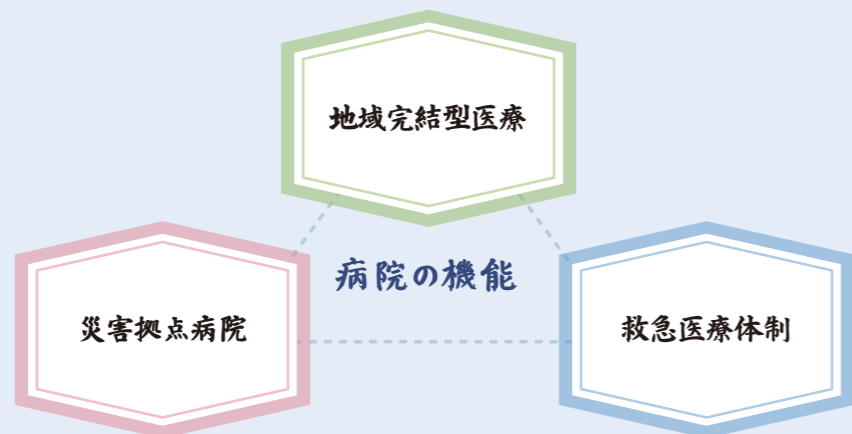
伊達赤十字病院



理念

地域の皆様に信頼される病院を目指す

伊達赤十字病院は赤十字のころを基に、地域の皆様に信頼される医療を目指します。



基本方針

- 一 患者様の人格、人権を尊重した、患者様の立場に立った医療をめざします。
- 二 医療人として常に自己研鑽し、より高度な医療サービスの提供をいたします。
- 三 病院における医療事故の防止及び医療の安全性の更なる向上を図ります。
- 四 胆振西部地域の中核病院として、医療・保険・福祉との連携を図り、住民の健康と生活を守ります。

名称	伊達赤十字病院
創立	昭和 15 年 8 月 28 日
院長	久居 弘幸
診療科目	内科、小児科、精神神経科、外科、整形外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、眼科、麻酔科、循環器科、神経内科、呼吸器科、消化器科、放射線科、リハビリテーション科

施設認定・北海道指定

日本内科学会教育関連施設、日本消化器病学会指導施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本胆道学会指導施設
 日本肝臓学会特別連携施設、日本痔臓学会認定指導施設、日本栄養治療学会稼働認定施設 (NST)
 日本循環器学会研修施設、日本外科学会修練施設、日本消化器外科学会関連施設、日本乳癌学会関連施設
 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設認定、日本眼科専門医研修施設、日本麻酔学会麻酔科認定病院
 日本ペインクリニック学会指定研修施設、母体保護法医師指定基準研修関連病院、日本神経学会准教育施設
 総合診療医後期研修プログラム認定施設 (2.ver)、北海道がん診療連携指定病院、北海道てんかん 2 次診療施設
 災害拠点病院、へき地医療拠点病院、がん診療連携指定病院

地域とともに歩む医療を目指して



伊達赤十字病院 院長
久居 弘幸

伊達赤十字病院は、1940 年の開設以来、胆振西部地域の中核病院として、地域医療を支える役割を担ってまいりました。医療を取り巻く環境が大きく変化するなかで、当院に求められる役割も年々多様化・高度化しており、地域の皆様に信頼される医療を提供し続けることの重要性を日々実感しております。

限られた医療資源のもとで質の高い医療を実践するためには、医師、看護師、医療技術職、事務職など、多職種が専門性を生かし、互いを尊重し合いながら連携するチーム医療が欠かせません。また、その土台となるのは、職員一人ひとりが安心して働き、やりがいを持って力を発揮できる職場環境であると考えています。

日本赤十字社の理念である「人道と博愛」の精神のもと、地域に根ざした医療を大切にしながら、患者さん、地域の皆様そして医療を共に担う方々から信頼される病院を目指し今後も職員一丸となって取り組んでまいります。

当院の医療圏

- 医療圏の人口 約 5.8 万人 … うち伊達市の人口 約 3.1 万人
- 函館方面は八雲町まで総合病院が無い場合、診療圏が広範囲
- 黒松内町は福祉施設が多く伊達方面への通院が多い



- 伊達市⇄長万部町
車で約 1 時間 (約 57 km)
- 伊達市⇄喜茂別町
車で約 1 時間 (約 55 km)



治し、支える診療体制

一般病棟 (4階 / 47床)

消化器科・外科・耳鼻咽喉科・婦人科の混合病棟です。当病棟は、主に消化器病センターとして消化器疾患全般に対する診療を担っています。急性期から慢性期まで幅広い病態に対応し、抗がん剤治療や検査入院、悪性・良性手術のほか穿孔性腹膜炎などの緊急手術症例も対応しております。消化器科と外科が密接に連携することで、検査から治療、手術までを一貫してスムーズに提供できる体制を整えていることが大きな特徴です。



一般病棟 (6階 / 44床)

循環器科・神経内科・内科・麻酔科の混合病棟です。当病棟は心臓・血管疾患における治療を担う循環器科や、高齢者に多くみられる疾患（肺炎、尿路感染症など）、神経難病などの受け入れを行う神経内科など幅広く対応しています。近年は、高齢者救急を主とした循環器科ホットラインを開始し、24時間365日救急対応を行っております。また、心不全患者さんの看護を充実するため、心不全療養士を主として心臓リハビリテーションチームによる看護の提供を開始しています。



地域包括ケア病棟 (5階 / 43床)

急性期治療を終え、症状が安定した患者さんに対し、自宅や施設へ帰るための日常生活動作機能を取り戻すために医師、看護師、リハビリ、医療ソーシャルワーカー、訪問看護、ケアマネジャーなど多職種が連携し、早期の退院を目指しています。また、介護疲れなどから介護を続けられなくなることを防ぐため、レスパイト入院も随時受け入れています。



障がい者病棟 (西3階 / 43床)

主に重度の肢体不自由（脳卒中後遺症や認知症を除く）や神経難病で長期的な治療が必要な患者さんを受け入れています。長期入院による日常生活でも季節感を感じていただけるよう行事ごとに壁の装飾を変えています。少しでも心地良いと感じられるような時間や空間、ケアを提供できるような病棟づくりを目指しています。



人工透析センター (28床)

検査や治療目的で入院される腎不全患者さん、ならびに旅行透析患者さんの受け入れが可能な体制を整えています。また、身体機能の維持・向上のために透析中の運動療法も実施しています。

医療機器紹介

内視鏡システム EVIS XI・EU-ME3・SU-1



超音波内視鏡スコープ (EUS) 【オリンパス / 富士フイルムメディカル】

ラジアル1本、コンベックス2本を整備。多様な症例に対応できるラインナップで、診断から治療まで幅広いEUS手技を提供可能です。

SpyGlassDS 【Boston Scientific】

胆道・膵管内を直接観察できるデジタル内視鏡システム。難治症例の診断精度向上と治療選択の幅を広げ、高度な内視鏡診療が可能です。

CAD EYE 【富士フイルムメディカル】

病変検出をリアルタイムに支援するAIシステムを導入。大腸内視鏡検査における見逃し低減と質向上を目指し、医師の診断精度のサポートが可能です。

その他機器
外科用内視鏡システム VISERA ELITEII、超音波手術器 CUSA Clarity、IABP ZUIRYU
超音波診断装置 EPIQ Elite、下肢静脈瘤血管内焼灼装置 Leonardo Bonsai 1470
64列2管球 CT Revolution HD、1.5テスラ MRI SIGNA Explorer
マンモグラフィ AMULET Innovality、心肺運動負荷検査 CPX 他

血管内超音波診断装置 IVUS



当院で採用している血管内超音波 IVUS について
IVUS は血管の内腔・プラーク性状・病変長・石灰化量を評価し、PCI や EVT の治療戦略の最適化に不可欠な医療機器であり、機種によって得意領域や画像特性が異なるため、病変・手技に応じた最適選択をしています。

IntraSight Mobile 【Philips】 -移動可能・深部血管も見やすい汎用 IVUS

下肢動脈 (SFA, popliteal, iliac) EVT など末梢血管や大血管評価に適する高い視認性をもっています。

POLARIS 【Boston Scientific】 -冠動脈 PCI に最適化された高精細 IVUS

冠動脈病変に対して、FFR/DFR を併用した精密な PCI の戦略を立てたいときに使用します。

多種職によるチーム医療

当院では、医師、看護師、管理栄養士、リハビリスタッフなどの専門職が、それぞれの専門性を持ち寄り、一つのチームとなって患者の回復を強力にバックアップしています。



褥瘡対策チーム

活動性が低下したり、安静状態が長く続くと、圧迫を受けるお尻やかかとの皮膚に褥瘡ができやすくなります。悪化すると治りにくいので、予防・早期発見に努め、適切な褥瘡管理によって改善・治癒を目指します。

認知症ケアチーム

認知機能障害がある患者さんを対象に、安心安全に身体疾患の治療を受けられるように、多職種と協働しながら療育環境の提供と早期退院支援を図る事を目的に活動しています。

感染管理チーム (ICT)

入院患者の高齢化や基礎疾患をお持ちの方が多いため、感染症が発生すると重症化や集団感染に繋がる恐れがあります。ICTが中心となり、地域と連携しながら感染症の予防から発生時の対応までを行っています。

糖尿病透析予防診療チーム

地域の糖尿病患者が、健康な人と変わらない人生を送っていただけるように、チーム一丸となってサポートしています。週1回のカンファレンスにて多職種による症例検討の実施、年4回の糖尿病教室を開催しています。

栄養サポートチーム (NST)

医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・言語聴覚士など様々な職種がそれぞれの専門知識を持ち寄り、食事摂取が十分でない患者さんや低栄養などの患者さんの栄養管理を行っています。

身体拘束最小化チーム

入院中の患者さんの身体拘束を最小限に抑えるための専門チームです。身体拘束の使用を減らし、尊厳と安全を守ることを目的に、より良い入院環境を提供することを目指しています。

心臓リハビリテーションチーム

看護師・理学療法士・栄養士・薬剤師・MSWが連携し、運動指導や栄養・内服指導といった患者教育、カウンセリングを行うことで再入院防止や社会復帰を支援します。

医療安全推進チーム

医療事故の防止及び医療安全の更なる向上を図るため、職員の教育・研修を年2回以上実施。医療事故が発生した場合における速やかな体制整備及び、改善案の立案・実施・評価をチーム主体で行っています。

各分野スペシャリストによる専門外来

- 緩和ケア外来
- 糖尿病・内分泌外来
- 甲状腺専門外来
- 栄養サポート外来
- 下肢血管外来
- 物忘れ・頭痛外来
- 肛門外来
- ペースメーカー外来
- ストーマ外来
- 睡眠時無呼吸症候群外来

看護外来・認定看護師による専門ケア

- フットケア外来
- リンパ浮腫ケア外来

地域医療連携・相談センター

当院の相談窓口・連携窓口

地域医療連携室

地域の医療機関・福祉施設との連携を密にし、患者さんの紹介や逆紹介の対応・調整を行っています。その他、診療情報提供書や画像データのやり取りなど医療連携を行う窓口となっています。

がん相談支援センター

今後の療養生活への不安やがんの治療について、他医療機関の情報提供などがん治療に関する情報発信と相談体制の強化に努めております。
入院患者さんについては緩和ケアチームを発足させ、その人らしい人生を送れるよう多職種によるサポートも併せて行っています。

医療相談室 (MSW)

専門の資格を持った相談員が、療養上の様々な心配ごとについて、患者さんや家族の皆様と一緒に考えながら解決の道を探していきます。

入退院支援センター

- 予定されている治療について、クリティカルパスを用いた説明
- 入院生活における不安や疑問点の解消や退院を見据えた相談

～退院調整・在宅療養支援～

- 患者・家族の希望に寄り添った支援
- 療養先の相談、ご自宅での医療処置や医療機器に関する相談等

多職種連携による包括的な患者サポートに加え、院外の様々な人、機関と繋がるお手伝いをしています。



地域の医療・福祉機関、行政との連携

病院・介護老人施設・特別養護老人ホーム 障害者支援施設・知的障害者更生施設 等

専門的な医療の継続、リハビリテーションのための転院や介護老人保健施設等へのスムーズな入所を支援します。

- 他医療機関との紹介・逆紹介調整
- リハビリ転院・施設入所時の情報共有

行政役場・地域包括支援センター ケアマネージャー 等

介護保険、公的サービスの申請支援、ケアマネージャー等との密な連携により、住み慣れた地域での生活継続をトータルにサポートします。

訪問看護・リハビリ調整

介護保険・福祉用具相談

健診センター



伊達市および周辺地域における予防医療の拠点として
住民・学校・事業所を対象に幅広い健診を提供しています。

地域で働く世代の事業所健診を担う

人間ドック、生活習慣病予防健診、特定健診など地域を担う現役世代がいる事業所毎の細かなニーズに合わせた健診メニューを提供しています。

西胆振地域における予防医療の実践

地域の学校健診や近隣施設を利用した住民健診を展開し、子どもたちから高齢者までを支える院外検診を実施しています。

受診が必要な方へのサポート

健診結果より異常が見つかった際の病気の早期発見・治療を病院併設の強みを活かし、スムーズな受診へつなげています。

各種抗体検査、予防接種の実施

18歳以上を対象とした帯状疱疹ワクチン、ダニ媒介性ワクチンなどの各種抗体検査や予防接種に対応しています。

訪問看護ステーション



病院併設の強みを活かし多職種との連携体制のもと、利用者の在宅における生活の質を維持・向上させる看護の提供を目指しています。さらに、疾患を限定しない受け入れ体制および24時間の連携体制を有し、在宅での看取りにも対応しています。

症状の観察と処置

- 症状のチェック
- 各種カテーテル管理の実施
- 褥瘡予防・処置

リハビリテーション

- 身体機能の維持・向上
- 日常生活の中での動作訓練の指導・支援

利用者家族への支援

- 介護方法のアドバイス
- 悩み相談等

病院と地域をつなぐ架け橋として

健診による「予防」から訪問看護における「在宅支援」まで
地域住民のライフステージに寄り添った、切れ目のないケアを提供しています。

専門性を高めるサポート体制

当院は赤十字の使命に基づき、未来の医療を担う若手の成長を支え、高度医療提供のため、職員の自己研鑽をサポートしています。

地域医療教育への貢献

ベテラン医師のサポートによる臨床研修医の受入によるサブスペシャリティ領域における研鑽や看護師・コメディカル・事務など多職種に関連学生の実習を積極的に受けています。西胆振の医療ニーズを肌で感じ、患者さんの生活に寄り添う医療と学ぶ場を提供しています。



専門資格取得のサポート

認定看護師・特定看護師等の各種専門資格の取得を推奨。研修参加へのサポートを通じて個々のキャリアアップと医療の質の向上を両立させています。

認定看護師・特定行為看護師実績

がん性疼痛看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、感染管理認定看護師、認知症看護認定看護師
がん化学療法看護認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、特定行為看護師（PICC 挿入）

新人看護師教育・ラダー制度

1 新人教育育成・共有フィールド



教育体制

私たちの『共有 (きょういく)』

「教える側も、教わる側も、共に育つ」新人を一人のスタッフが抱え込むのではなく、みんなで育てるという温かい文化が根付いています。自信をもって笑顔で看護が出来る日までずっと隣にいます。

2 キャリア開発プロセス：ラダー制度

継続的な自己研鑽と段階的な成長設計



地域とともに歩む医療の取組み

伊達赤十字フェスティバル

「見て、触れて、学ぶ」体験型の健康啓発イベント

「各種医療相談」「体験コーナー」を通して赤十字を身近に感じてもらい、楽しみながら健康意識を高める場として開催しています。



市民健康講座

当院の医師、専門スタッフが講師となり地域住民に対し健康増進を図ることを目的とし最新の医療知識を分かりやすく解説する学びの場を定期的に開催しています。



専門教室

がんサロン

患者さんやそのご家族が医療者を交えて「がん」のことについて語り合う交流の場を定期的に開催しています。

糖尿病教室

合併症を防ぎ、健康な生活を継続するためのセルフケアの習得を目的とし、専門医・管理栄養士による実践的な講習を開催しています。

各種講習

赤十字救急法講習

AEDの使い方や応急手当など、人命を救う方法の知識と技術を習得できる講習を実施しています。

感染症予防出前講習

地域の学校や施設を対象に感染症の予防を実施しています。

国内災害救護

日本赤十字社では使命である「人道」に基づき、災害発生時に迅速に救護活動ができるよう、平時より救護班の活動訓練を実施し、全国の「救い」に応える体制を整えています。



災害拠点病院の役割

当院は北海道指定の「災害拠点病院」として、広域災害時には24時間体制で傷病者受入対応など地域の砦として機能します。

DMAT 指定病院

発災48時間以内の「急性期」に活動できる機能性をもった専門的な災害派遣医療チームを、当院には1チーム常時災害等に備えています。

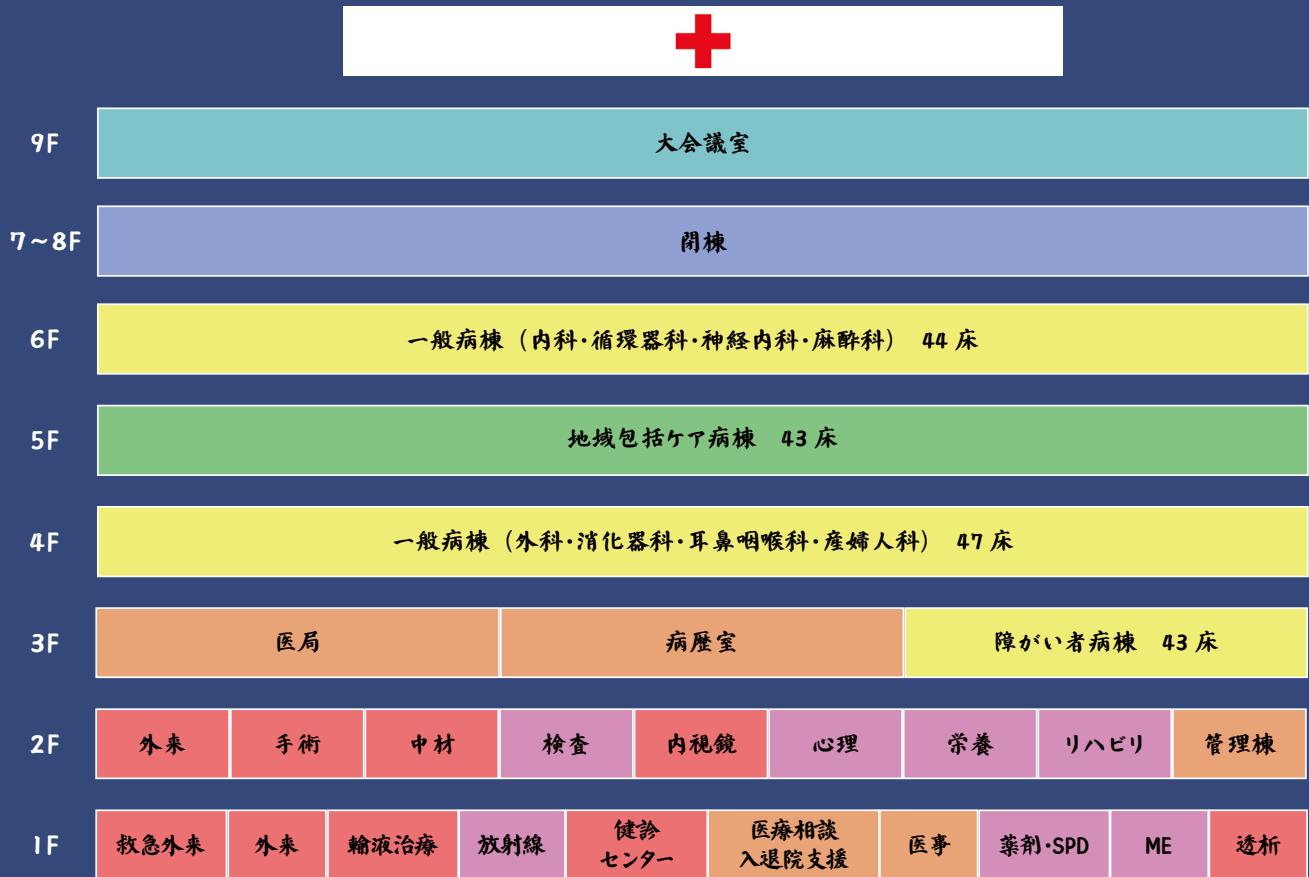
常備救護班2班体制

医師1名・看護師3名・主事2名で1個班を構成。被災現場や避難所での診療などを行います。

救護活動の実績

2024.01 能登半島地震 2018.09 北海道胆振東部地震 2016.04 熊本地震
2012.11 北海道胆振西部地区大規模停電 2011.3 東日本大震災 2000.12 北海道有珠山噴火

病院断面構成図



交通アクセス

道南バス「日赤入口 (北海道)」から徒歩3分

道南バス「日赤前 (伊達市)」から徒歩5分

JR伊達駅別から徒歩30分・タクシー10分

高速道路伊達インターから車で5分

駐輪場・駐車場あり



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

伊達赤十字病院

住 所

〒052-8511 北海道伊達市末永町 81 番地

T E L

0142-23-2211 (代表)

F A X

0142-23-5249

E-MAIL

drch@date.jrc.or.jp (代表)

U R L

<https://date.jrc.or.jp>

診療受付

午前 8:25 ~ 11:00 午後 0:45 ~ 3:00

休 診 日

土曜日・日曜日・祝祭日、開院記念日 (8月28日)

年末年始 (12月29日~1月3日)

